

町ジュニア海外使節団交流記



オランダを訪問した町ジュニア海外使節団（中学生9人、高校生2人）は1月6日から16日までの日程を終え、無事帰国しました。江戸時代にオランダ船プレスケンス号が山田湾に漂着したという史実が縁で始まった同国への派遣も、こととして17回目。生徒11人は友好都市ザイスト市でのホームステイを中心に、現地の人たちと友情を深めました。



引率の阿部景子教諭

豊間根中学校の佐藤豊副校長を団長とした、豊間根中・山田中の2年生9人と山田高の2年生2人、引率者3人の山田町ジュニア海外使節団14人は1月6日から16日までの11日間、友好都市オランダ王国ザイスト市を訪問しました。

1月6日に山田町を出発した使節団。成田空港に到着後、KLMオランダ航空の支援により航空機内を見学。普段見ることのできない貨物室やコックピットに生徒たちは興味深々の様子でした。

翌7日夕方にアムステルダムスキポール空港に到着。入国手続きを済ませゲートを抜けると、国際交流団体ホフライスのステインスマ会長、ザイスト市在住の門河夫妻、ガイドの山口千真さんが温かく出迎えてくれました。その後、アンネフランクハウスを見学しました。

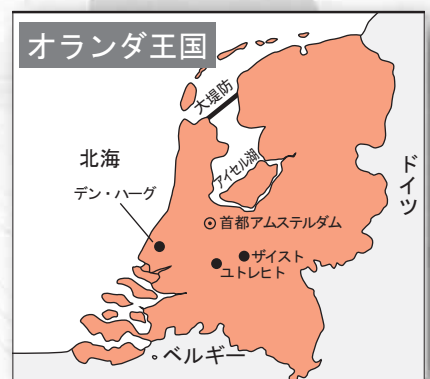
8日は、授業に参加するザイスト市のクリスティック・リセ

イム・ザイスト（CLZ）校へ。校内を案内された後、盛大な歓迎会が行われました。

午後にはザイスト市役所を表敬訪問。ヤンセン市長から歓迎を受けたほか、ザイスト市について学びました。また、同市に建立されているザイスト城を見学し、中世時代の美しい建造物に魅了されました。夕方、CLZ校でホストファミリーとの顔合わせの後、生徒たちはそれぞれの滞在先へと向かいました。

翌9日と10日はCLZ校の授業に参加。生徒たちは、緊張しながらも学習会で鍛えた英語とオランダ語にジェスチャーを交え、オランダの生徒との交流を楽しみました。

また、10日夕方にはフェアウェルパーティーが開かれ、学校関係者やホストファミリーなど大勢が参加しました。パ





文化は異なっても 人の温かさを実感

山田高 山崎晶瑛さん

わたしは今回、ホームステイが一番の思い出となりました。初めてホストファミリーと対面した時は不安と楽しみが半分半分でしたが、そんなわたしの気持ちを和らげるかのように笑顔で迎えてくれました。

そして、ホストファミリーのお父さんとお母さんは毎朝「よく眠れたか」、家に帰ると「一日楽しかったか」など毎日話を聞いてくれました。7泊8日という短い期間でしたが、わたしを本当の家族のように受け入れてくれました。文化や言葉が違って、人の気持ちの温かさは同じだと実感でき、心に残る一週間になりました。

どこまでも広がる 景色に心惹かれて

山田高 木村雄太君



オランダに到着し、アンネの家へ向かいました。薄暗い灯りの中、アンネがひっそりと暮らしていた部屋がありました。この部屋でおびえながら暮らしていることはとてもつらく恐ろしいことだと感じました。ユトレヒトで登ったドムタワーでは、屋上まで急な階段が続き、中心部分には大きさの違う鐘がいくつもつり下げられていました。目を回しながら、屋上に到着。快晴の天空にどこまでも続く平らな地面が広がり、その景色は言葉にできないほどきれいでした。日本とオランダの文化の違いを実際に目で見て感じることができました。



学校文化の違いに 驚きの連続でした

山田中 梶山拓郎君

僕は学校のルールや授業の様子がとても驚いたことがあります。それは制服がなく、私服で学校に通学していることです。他にも、僕たちの学校で持ってきてはいけないお菓子やジュース、携帯電話を持ってきたり、授業では生徒一人一人がパソコンを持っていたりするなど、とても衝撃的でした。コンピューターの授業で、パソコンで自由にインターネットを使いながら学習をして楽しかったです。

日本の学校と比べ、校則や授業内容などの文化が全く違ってとてもいい経験になりました。

遠くて最も近い国 ・・・オランダ

ジュニア海外使節団团长

佐藤 豊豊間根中副校長



震災後、派遣が再開されたジュニア海外使節団。所要時間約12時間、時差8時間…一人一人が体で感じた異文化の入り口だったと思います。

今回の旅では、「互いに助けあうチームワーク」、「積極的に行動するフットワーク」、「オランダでの交流を通して心の絆を深める広いネットワーク」を各自の目標に考えました。一抹の不安をよそに、日々交流を深める生徒の姿をみて言葉を超えた異文化理解を考えさせられました。

ホストファミリーからは「7日間では短いです。2～3週間いてほしい…」「日本の生徒たちは明るく礼儀正しい」と言われ、各家庭で頑張っている生徒の様子を垣間見ることができました。

また、震災後の生徒一人一人の足跡を聞き涙する場面も見られ、山田町に心を寄せる思いを感じました。

主な行動日程

1月6日…本町出発 7日…アムステルダム着 8日…C L Z校で歓迎会／ザイスト市役所表敬訪問／ホームステイ先へ(14日までザイスト市内でホームステイ) 9日…C L Zの授業に参加(10日まで) 10日…フェアウェルパーティー 11日…アムステルダム日本人学校訪問／在蘭日本大使館訪問 12日…エルミタージュ美術館、国立博物館やザーンセ・スカンス風車の村など見学 13日…終日ホストファミリーと過ごす 14日…ホストファミリーとお別れ 16日…帰町

ティールでは、ビデオで山田の各学校を紹介した後、山崎晶瑛さんが空手の演舞を披露し、わだつみ節を生徒全員で演じ、その後、両校の生徒らは、ディスコダンスでさらに親交を深めていました。11日にアムステルダムの日本人学校を訪問し、一緒に歌を歌うなど異国の地で日本語での交流に話を弾ませ、午後はハーグ市の在蘭日本大使館を訪問しました。12日には有名な

ゴッホの絵画「ひまわり」が展示されているエルミタージュ美術館や国立博物館、ザーンセ・スカンスの「風車の村」を見学しました。13日にホストファミリーと一日過ごした一行は、翌14日にはお世話になった皆さんとの別れ言葉の壁を乗り越え通じ合えた友との別れはつらいものとなりました。生徒たちは見送りに来たホストファミリーが見えなくなるまでいつまでも手を振っていました。遠くオランダの地で広げた友情を心に刻み、大きく成長した生徒たちを乗せて、飛行機は日本へと出発しました。



①ディスコダンスを楽しむ生徒たち／②ザイスト市役所を表敬訪問／③在蘭日本大使館で説明を受けました／④アムステルダム日本人学校の生徒と仲良しに／⑤C L Z校と一緒に授業を受ける生徒たち



オランダでの生活 体験を今後の糧に

佐々木 彪河君 ひょうが

僕にとって、一番思い出になったことはホストファミリーとの交流です。初日は会話うまくできませんでした。日を重ねるうちに町のことや日本の食文化のことを話せるようになり、会話をすればするほど、ホームステイを楽しむことができました。

ホストファミリーとの別れの日には、一緒にそばを作って食べました。日本で練習していたので、そばをおいしく食べて喜んでもらえたのでうれしかったです。この体験は僕にとって、とても貴重でかけがえのないものになりました。これからの学校生活にも生かしていきたいと思います。



再会を胸に感謝の 気持ちを忘れない

佐々木 樹奈さん じゅな

わたしは最初不安が大きく、話しかけられても緊張してうまく返事ができませんでした。しかし、一緒にカップケーキを作ったり、ダンスをしたり普段経験できないようなことができてよかったです。

最終日、お母さんが「あなたはわたしの娘よ。あなたがわたしの娘で嬉しいわ」と言って抱きしめてくれました。ホストフレンドのイリスは朝食にも手をつけず、悲しそうな顔をしていました。バスに乗るとき家族や友達と抱き合い、姿が見えなくなるまで手を振りました。わたしはまたホストファミリーに会って「ありがとう」と言いたいです。

ホストファミリー と過ごした7日間

阿部 翔子さん しょうこ

わたしのホストフレンドはエヴァという名前で、エヴァとそのご家族はとても優しく、緊張しているわたしにたくさん話しかけてくれました。

そのおかげで、自分から話しかけることが増え楽しく過ごすことができました。最終日にみんなで大きなパンケーキを食べ、写真を撮ったときに最後なんだなあと、寂しくなりました。帰りのバスに乗った時、エヴァの家にホームステイして良かったなと感じました。ホストファミリーと過ごした7日間で成長でき、これからの生活に活かせるようにもっと部活や勉強などを頑張りたいです。



親しくしてくれた ホストファミリー

山田中 糠森由佳さん

わたしは初めて会う人の家にホームステイすることが不安でしたが、ホストファミリーと過

ごす中でその不安は次第に薄れていきました。

ジョークを言って楽しませてくれたお父さん。温かく接してくれたお母さん。とても優しいお兄さん。笑顔でいつも接してくれたホストフレンドのカリン。ホストファミリーやCLZ校の友達のおかげでとても楽しく過ごすことができました。ザイスト市と山田町はとても遠くてすぐに会うことは難しいけれども、また会うことができたならば、『ありがとう』と心から伝えたいです。



お互いを思いやり 楽しむ事ができた

山田中 篠澤 瞳さん

オランダでのホームステイは、とても短くかけがえのないものでした。最初は、不安と緊張で胸が張り裂けそうでしたが、ホストファミリーのみんなが温かく迎えてくれて、不安は安心に変わりました。

今まで行ったことがないお店に連れて行ってくれたり、一緒にダンスを踊ったり、たくさんのことをホストファミリーとしました。言葉も文化も違う中、お互いを思いやり楽しく7日間を過ごすことができてとてもよかったです。

これからは、この海外派遣で得たことを、自分の将来に生かし、山田町の復興につなげていきたいです。

貴重な経験もとに たくさんの挑戦を

豊間根中 鈴木悠太君



心配と不安の中で出会ったホストファミリー。笑顔で「初めまして、ユウタ」と言われ家族と同じように接してくれて気持ちが楽になりました。

僕が磯辺モチを作ったときにモチの食感に戸惑いながらも、一生懸命食べてくれました。お土産に持っていった紙風船をみんなで遊び、僕が部屋に戻ってから紙風船で遊ぶ音が聞こえ、喜んでもらったことがとてもうれしかったです。僕は、オランダ派遣という貴重な経験でいろいろなことを学ぶことができました。これからもどんどんいろいろなことに挑戦していきたいです。

出発の朝、子どもたちはいつまでも別れを惜しんでいました



夢のような世界で 探究心に目覚めた

山田中 中村奈緒さん

「これは夢？」そう思うような世界でした。一日一日が感動の連続でもっと知りたい、もっと

学びたいと感じました。オランダには見た人を引き寄せる斬新な建築物や、土地が平坦で水位が地面より高い所などがあり、驚きました。

震災以来初の海外派遣で、皆さんがわたしたちのためにたくさんの支援活動をしていたことを知り、感謝の気持ちでいっぱいです。出会った人が優しく接してくれて、寂しいと思うことはありませんでした。海外派遣ができたことに感謝し、これからの生活に生かしていきたいと思ひます。



CLZ校の自由な 校風に刺激を受けた

山田中 阿部麻里香さん

わたしは、CLZ校で日本の学校と違う点を二つ見つめました。

一つは、私服で生活することです。二つ目は、休み時間が多いこと。授業が終わるごとに30分間の休みがあり、その間お菓子などを食べていたので、自由な学校なんだと感じました。また、みんなが親切で廊下ですれ違ったときに「こんにちは」と日本語で声を掛けてくれた人もいました。言葉は通じなかったと思うけれど、たくさんの人と交流ができて良い経験ができました。これからは、海外派遣で得た経験を将来につなげていきたいと思ひます。